

シリーズ「どんな人でも読みやすい表示」

職場にはいろいろな人がいます。高齢労働者、外国人労働者、非正規労働者などです。

どんな人でも読みやすく見間違いにくい表示を行うことによって

転倒などの労災を予防できないか、ということで、

最近、中災防から「多様な労働者向けわかりやすい図示化の手引き」というものが出されています。

(その1) どんな人でも読みやすい書体

●「ユニバーサルデザインフォント」がおすすめ

「ユニバーサルデザイン」とは、

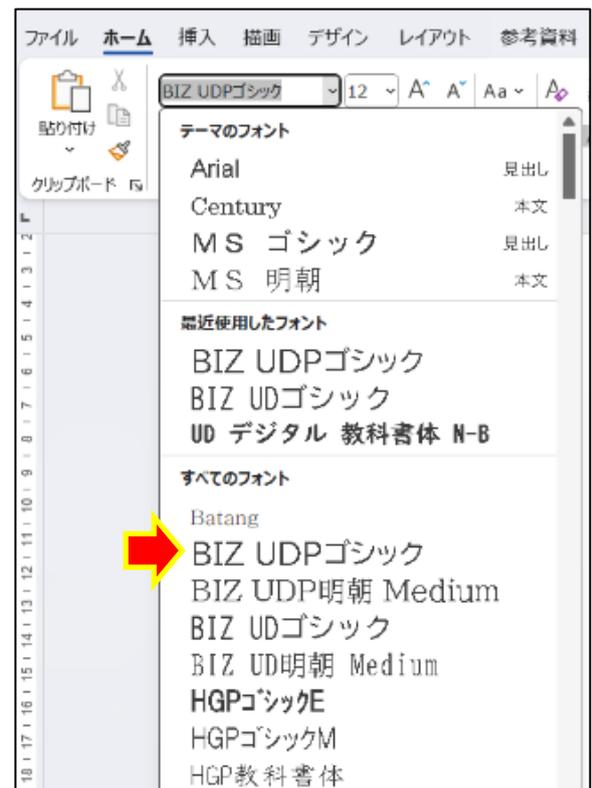
障害の有無に関係なくすべての人が使いやすいようなデザイン、
という意味です。

頭文字を取って「UD」といいます。

右図のように、Word には初めから

UDのフォントが含まれています。

ちなみにこの書類は「BIZ UDPゴシック」で作りました。



●「ゴシック体」がおすすめ

様々なフォントには、各々、

「明朝体」と「ゴシック体」があります。

明朝体は縦線が太く横線が細いです。

ゴシック体は縦線も横線も太さが同じです。

ある種類の発達障害では、明朝体だと

見づらかったり気分が悪かったりするそうです。

●実際に見比べてみましょう

上の行に「MSP明朝」で、下の行に「BIZ UDPゴシック」で、見分けにくい字を羅列してみました。

フォントサイズは同じです。圧倒的に下の行の方が見やすいと思いませんか？

べぺ3689減減続続持待昔音 <http://hsck.jp/>

バペ3689減減続続持待昔音 <http://hsck.jp/>